

社会で学ぶ、社会から学ぶ

人文学部 足達紀昭くん(平成 25 年 3 月卒業)

★授業でもらったキッカケをつないでゆく

私は大学生活における四年間、多くのフィールドで活動をする機会を頂きました。主な活動地域は、仁淀川町長者地区をはじめ大豊町怒田地区や市内の帯屋町商店街等であり、多くの社会人の方にお世話になりました。まずこの場を借りお礼申し上げます。地域で行われる祭りの手伝いや、時には伝統芸能に触れたことは、大学に入り右も左も分からなかった自分に学問への興味を抱かせてくれました。恥ずかしながら、高校時代において本も読まず、勉強に対しても大きな関心も無かった私は、大学入学当初「そんな自分の何かを変えたい・何かをしたい」という漠然とした思いだけでその手法がどんなものであるか。大学生活の中でこんなことをしてみたいといった明確な目標を持っていませんでした。

そんな時に地域協働入門の講義をはじめ、教授達の紹介もあり、地域で活躍する社会人の方にお世話になりつつ、フィールドワークや協働を通して多くの事を学びきっかけを頂きました。その瞬間まで、社会で働く人達との密接な接点といえば、せいぜいアルバイト先の人達や学校の教師、家庭でいえば親くらいしかなかった私は、学ぶこと全てが新鮮で、その地域が抱えている問題や現状、地域の歴史や祭りの由来など、それまで聞くことも疑問におもわなかったものを知っていくうち、何かしらの問題意識を持ちそれに対して地域の方と共に対策（学生活動）を行う、アクションを起こすことの大切さを認識させられたことを覚えています。

社会人の方とは協働を行う中で、最初は授業を通しての付き合いだったものが、授業が終われば個人同士の信頼の関係の中での付き合いとなり、社会におけるマナーは勿論、働くことの楽しさや悩みを語って頂きました。その中で感じたことは多くの社会人の方が仕事の中に楽しみを見出し、また思いを持って働いている事。地域や経営の中で抱える問題と向き合い、そのためにどのような行動が必要になってくるのか、常に考えアクションを起こしていく。こうした社会人の姿や思いに触れ、学生活動を始めようと思ったのが私の大学生活のはじまりです。

★自分も当事者として社会と向き合う

ただ一人で活動しようと思ったわけではありません。大学生活の中では多くの学生（仲間）と学ぶ機会を共にし、同じ目標を共有しながら活動を行ってきました。これも、不思議なもので、部活動でもなくサークルでもない。勝ちや負けなど答えがあるわけではないが、団体として目標を定め活動を行っていく。日々飛び交う日程調整や、「報・連・相」のメールはもはや企業における業務連絡と変わらず、その先輩・後輩問わず仕事の速さにやる気を触発されました。同じ学生でも夢もなりたい職も違う個性豊かな人達があつまり、一つの企画を練り実施していく。イベントにおいては、一世を風靡した人間ボーリングやヒットマンも、蓋を開ければ全身タイトの男がはしゃいでいるだけなのですが、そこに企画が加わることにより、付加価値が生まれ地域の人達にも認識してもらえたのだと思います。この発想も私一人では思いつくようなものではなく、仲間がいたからこそ生まれた企

画であり、4年間持続させられたのだと感じます。この他にも多くの企画に参加させて頂き、その繰り返しの中、多くの失敗を経験しましたし、自分がどうしてこのようなことをしているのか。活動の意義を考えさせられる時が多々ありました。学ぶ姿勢は大切ですし自己の経験を深めるという意味で「自己満足」と言われればそれまでなのですが、ただ与えられるだけでは本当に自己満足で終わってしまう。社会人の方から学ばせてもらうことも勿論大事ですが、ただ与えられるだけではなく、直面している問題に対して、自分達学生自身も当事者となり何か行動を起こすことができれば、それは自己満足ではなく対等で支え合う学生と社会人の関係が構築されるのではと私は考えます。こうした思いから、地域を元気にしたいという目標をスローガンに4年間学生生活動というものに専念してきました。

私達学生は、遅かれ早かれ最終的に目指す所は社会人であり、そのための基礎力を磨くという意味で、自分たちで企画を行い実践すること。多くの社会人の方と関わらせていただき、その経験や思考を勉強させていただいたこと。多くの失敗や成功を経験し、仲間たちと共に迷い・悩み・喜んだりしたことは、人生という長いスパンの中で貴重な経験を積むことができたのだと私は思います。